

国際医療協力活動レポート

VOL. 1

AMDA の活動記録

AMDA 代表 菅波 茂

AMDA 活動のきっかけ

アジア医師連絡協議会 (AMDA) はアジアやアフリカで自然災害や戦争による難民に対して医療による人道援助を実施している国際医療 NGO (民間団体) である。アジアの15ヶ国に約600名の会員がいる。1979年に内戦によりタイ国に避難したカンボジア難民に医師であった私と2名の医学生が救援にかけつけたが何もできなかったことが AMDA の発端である。

AMDA の理念は「アジアのより良き医療、より良き将来」であるが変更する必要に迫られている。なぜなら AMDA の活動はアジアのみならずアフリカにも活動が広がっているからである。Association of Medical Doctors for Asia は近い将来に Association of Medical Doctors for All となる予定である。

AMDA の活動は国内では東京と大阪に AMDA 国際医療情報センターを開設して在日外国人の医療相談を実施している。海外では国連難民高等弁務官など国連機関との密接な連携のもとにアジアの情熱に燃えた若い医師達と自然災害被災民や戦争による難民のために緊急救援医療活動を展開している。

具体的には1988年インド連邦カルナタカ州無為地区巡回診療プロジェクト、1991年バングラデシュのミャンマー難民救済医療プロジェクト、ネパール王国ビスヌ村地域保健医療

プロジェクト、クルド湾岸戦争被災民救援プロジェクト、ピナツボ火山噴火被災民救援医療プロジェクト、1992年エチオピアチグレ州難民救援医療プロジェクト、ネパール王国ブータン難民救援医療プロジェクト、カンボジア難民本国帰還対応医療プロジェクト、1993年ソマリア難民救援医療プロジェクト、ネパール/バングラデシュ大洪水被災民救援医療プロジェクト、インド西部大地震被災民救援医療プロジェクト、1994年インドネシアスマトラ島南部大地震被災民救援医療プロジェクト、モザンビーク避難民帰還対応医療プロジェクトなどである。

AMDA が実施している国際医療協力を紹介することにより国際社会の現状と海外医療事情の一端を紹介できれば幸いである。

ジブチ共和国での活動

国連平和活動 (PKO) の失敗例と言われているソマリア難民のために医療チームを1993年1月より派遣している。場所はアフリカの角といわれているソマリアの北部に面している小国ジブチ共和国である。人口50万人。世界で一番暑い国といわれている。火山性の砂漠が大部分を占め砂埃が舞う乾燥した大地が続く。ジブチ共和国は旧フランス植民地である。公用語はフランス語。あの有名なフランスの外人部隊の駐屯地があり、スエズ運河のある紅海の出口でにらみをきかしている。ソ

マリア南部は首都モガディシュを中心に戦闘が繰り返されているが、北部は比較的安定している。北部は旧英国植民地で南部は旧イタリア植民地である。

ジブチ共和国には現在4つの難民キャンプが国境沿いにある。内戦を逃れてきた難民数は4つのキャンプに約3万人そして首都のジブチビルに約7万人の計10万人と推定されている。AMDAはこの4つの難民キャンプと首都にあるダルハナン産婦人科専門病院の診療運営をまかされている。

難民キャンプでの仕事内容を紹介したい。

写真上：ソマリア難民キャンプで医療活動に当たるAMDAのDr. 国井氏（ソマリア難民プロジェクト開始当初）

写真下：現地のAMDA医療スタッフ、フィリピン医師、日本人看護婦が共に医療活動を行うソマリア難民緊急救援プロジェクト（ジブチ国内にて）



まず、チームの平均的一日の行動を追ってみる。首都より120km南にあるアリサビエという町に事務所と宿舎を置いている。朝5時半起床。6時半難民キャンプにパジェロで出動。1時間後にキャンプ到着。すでに現地のヘルススタッフを中心に診療は始まっており患者の列ができています。簡単な疾患は彼らに任せる。難しい疾患は診察後ディスカッションする。重症患者が重なって同時に5-6人点滴中ということもある。入院を要すればパジェロでアリサビエの病院に運ぶ。温度計の目盛が上がりきる頃に外来が済む。休むまもなく現地スタッフのトレーニングプログラム開始となる。午後1時頃に帰途につく。昼食後に午睡。夕方には薬の調達と他団体との調整。午後9時頃夕食。その後ミーティング。明日にそなえて入眠である。

仕事内容は下記のごとく大別できる。

- 1) キャンプ内診療所での診察とテントへの往診
- 2) 現地ヘルススタッフのトレーニング
- 3) キャンプ内の母子センターにて栄養失調児の給食と母親の教育
- 4) 薬剤の供給

キャンプでは国境なき医師団（オランダ）が水の供給とワクチネーションを担当している。彼らは1993年12月で撤退しており現在ではAMDAが医療面と衛生面のすべてを国連難民高等弁務官との契約のもとに担当している。

私達が医療チーム派遣の要請を受けて現在の難民キャンプの医療を上記のように円滑に運営ができるまでに「これが国際社会だ」と感じさせられることが多々あった。即ち、国際医療協力は医療に加えて外交的手腕が必要である。外交的手腕の獲得には熱い汗とともに冷汗も必要であった。

次回にはこの点を中心に報告したい。